

3.10.3 社会還元促進部門 成果知財展開室

室長 萩本 猛 ほか4名

3

活動状況

NICT の先導的な研究成果の知的財産化を推進

【概要】

NICT の研究成果の特許権化を図りそれを適切に管理する、論文等も含めた研究成果をとりまとめ外部に情報発信するなどの活動を通じて、NICT の研究成果の社会還元を促進するため、以下の業務を行っている。

- (1) 研究者の研究成果の特許権化を支援する。
- (2) 社会で活用される可能性や NICT のミッションにおける重要性を勘案して特許取得・維持に関する判断を適切に行い、保有コストの削減を図る（第3期中期計画、平成23年度年度計画）。
- (3) NICT の研究成果について、NICT Web サイト上の成果公開システム等を活用し、学術上あるいは産業上優れた研究成果の効果的な発信に努める。また、第3期中期計画の目標達成に向け、年間論文発信量1,000報を目指して、研究成果の論文発表数の増加、著名な論文誌への積極的な投稿を促進する。

【平成23年度の活動実績】

(1) 知的財産ポリシーの改訂

NICT の研究開発成果である知的財産を適切に権利化し、その有効活用を図るための基本理念となる「NICT 知的財産ポリシー」を、平成24年3月13日に改訂し、知的財産の権利化の目的をより明確化するとともに、この目的を達成するための基本的な考え方を示した。

(2) 特許検討会の開始

特許の外国出願、審査請求、中間処理、特許権維持の各段階において、特許の権利化／特許権維持の判断を適切に実施するため、平成23年7月から特許検討会の運用を行っている。これによって、以下のような具体的成果が得られた。

- ①特許の権利化／維持判断への経営層の関与
- ②特許についての研究所のガバナンス強化
- ③特許取得の各ステージにおける見直しの促進
- ④特許の群管理（グループ化）による「見える」化

また、平成23年度は、国内94件、外国56件、国際特許出願7件の計157件の特許を出願した。

(3) 成果管理・公開システムの改修

NICT の研究成果を管理し、研究活動の成果を広く NICT 外部に公開する目的で運用している研究成果管理・公開システムを一部改修することで、データ管理及び利用者の利便性を向上させた。論文発信量については、研究開発成果をとりまとめた論文を著名な論文誌に積極的に投稿すること等を促進した結果、誌上発表論文件数は、1,003件となり、1,000件の目標を達成した（表1）。

表1 平成23年度誌上発表論文件数の内訳（発表区分別）

発表区分	区分の定義	件数
研究論文	学会が定期的に発行する学術雑誌に掲載されたオリジナル論文	297
小論文	学会が定期的に発行する学術雑誌に掲載されたオリジナル小論文、レター等	21
収録論文	学会シンポジウム等で口頭発表された後、プロシーディングとして掲載された論文	677
外部機関誌論文	公の研究機関等の編集発行する論文誌に査読過程を経て掲載された論文	8